

愛

題字 春霞 書

日本福音ルーテルなごや希望教会

発行所 名古屋市千種区今池 3-5-19

今池礼拝所

TEL052(732)5545

名古屋市千種区富士見台 4-100 自由ヶ丘礼拝所

TEL052(722)5796

名古屋市名東区高柳町 708

名東礼拝所

TEL052(771)5267

発行者 末竹 十大

2014年5月11日発行

季刊 第20号

無意味な意味

牧師 末竹 十大

我々人間は意味を求めている。意味があるならば、取り組み、行う価値があると思う。意味がないならば、取り組むことは無意味となり、してもしなくても良いものだと考える。我々が生き甲斐を求めるのも、同じ思考である。意味、生き甲斐といった価値を持っていることで、わたしは生きている意味があると思うのである。

しかし、それらの価値はわたしが思っているものであり、誰もが認めるものではない。従って、他者から「意味がない」と指摘されると、途端に意味を失い、落胆するものである。それゆえに、絶対的価値を求めて、我々は汲々としている。絶対的価値などないのに、この世で意味を探し回る。一時的に見つけた価値や意味によって、したくもないと思っていた仕事をやる意味を見出したと思う。わたしがしたくなくても、意味があるならば、その方が良いのだ。わたしがしたくても、意味がないなら、しても仕方ないのだ。

このような意味という価値が、我々の人生を振り回す。意味がないならば、やっても仕方ないではないかと。そんなことに力を注いで何になるのだと。こうして、我々は意味に振り回される人生を生

きる。

この世で認められなくても、神

が認めてくださるならば、わたしには価値があるのだと思う。この世で報われなくても、あの世で報われると信じて、苦しくても生きて行く。確かに、あの世で報われるならば、この世で生きて行く価値もあろうというものである。こうして、我々は意味や価値によって、自らを誤魔化しているのである。

無意味さに我慢ならないのが人間である。人間は意味を求める。アダムとエヴァも結局意味を求めて、禁断の木の実を食べてしまったのだ。蛇が食べることに意味を与えたからである。してみると、悪魔である蛇はアダムとエヴァに意味を与えて、罪を犯させたということになる。そうなのだ。意味を求めている限り、我々は意味に支配されている。意味が絶対であると信じている。そこに意味を与えるのはいったい誰なのだろうか。

キリストは無意味な死を死んだ。そして、神の意志に従った。これが神の答えである。無意味な意味を生きることが、神に従うことである。



新しい教会「私の夢」

内河 恵一

なごや希望教会は、更に一步を踏み出そうとしている。2009年に実質的に希望教会・名東教会・名古屋教会が合同しながらも、それぞれの教会の歴史・特徴を生かし、三つの礼拝所を維持してきた。しかし、同時に厳しい環境的条件を受け止めながら、一つの礼拝所への歩みをも模索してきた。そして、共にみ言葉を聞き、共に交わりを持つことの意味を徐々に膨らませてきたのである。紆余曲折はあったものの、今年の臨時総会で今池の地に一つの礼拝所を建てようという確認をし、今具体的にその準備を始めている。新しい「なごや希望教会」に思いを巡らすとき、いろいろな夢が浮かぶ。これまでも再三語り合い、暖めてきたものである。

第1は、「一つの礼拝所」である。兄弟姉妹が一つの礼拝所に集まり、そこで神様のみ言葉を共に聴き、交わりを深めることは、教会の核心と言って良い。もちろん、現実には財政上の観点、牧師数の減少、複数施設の老朽化等の現実的環境を視野に置くことになるが、それでもなお、「一つの体」としての教会を考えると、一つの礼拝所には特別な意味を見出すことができるのである。

第2は、「いつでも牧師がいる教会」である。最近、全国的に見ても、教会に牧師不在の状況が一般化しているように思う。一人の牧師が複数の礼拝所を飛び回るといふ現実が存在する。牧師は、厳し

い状況の中でその役目を果たしていることになるが、「教会という観点」から見ると瀕死の状況と言って良い。信徒が気軽に牧師館を訪ねるといふことが減り、また、悩みを抱えた人が教会の戸を叩くことも困難になっている。いつでも教会に牧師がいるという状況は、平凡なことではあるが、教会の理想の一つでなければならない。「教会が常に伝道する」という状況も私の夢である。もちろん、一人の牧師が説教・聖書研究の準備、訪問、行政事務等の仕事をしながらいつも教会にいることは物理的に不可能である。当然複数の牧師体制が「続く課題」である。

第3は、礼拝への「送迎システムの確立」である。一つの礼拝所に集中することにより、従来の礼拝出席より多くの時間を要するなど不便になる信徒が必ず増える。信徒の高齢化等を考えると、決して軽視できない問題である。もちろん、単に教会が遠くなるというだけではなく、信徒の高齢化に伴う身体の不自由さを補うためにも、送迎システムの確立は避けられない。信徒の動きを配慮した、きめの細かい送迎方法を何とか作り上げたい。

第4は、「子どものいる教会」である。幸い、当教会には、名古屋ルーテル幼稚園が隣接し、また、保護者も含めた「子どもの教会」が大変盛況である。子ども達は、成長のシンボルであり、次代の教会・社会を支える宝である。神様に愛される中で、その心も体も成長して行くことを祈りたい。そして願わくば、若い力が次のなごや希望教会をしっかりと支えるという「夢」を実現できたらと思う。

聖週間を大切に

末竹 十大

聖週間を理解するためには、礼拝に参加しなければならない。聖週間とはどういうものであるかを知っても、参加しなければ聖週間を過ごしたことはない。それは理解とは言わないのである。

聖週間が如何なるものであるかは、一人ひとりが聖週間礼拝を通して受け取るものである。自分自身がいかに罪深い存在であるかを受け取ることである。自らの罪深さを知らなければ、聖週間の意味も理解できないだろうし、復活祭を迎えることもできないのである。何故なら、主イエス・キリストの十字架と復活が自分自身のために起こった神の業であることを受け取ることができないからである。

枝の主日から始まる聖週間は、教会の歴史の中で聖なる一週間として守られてきた。エルサレムに入城されたイエス・キリストが、裏切られ、十字架に架かり、死んで葬られる一週間である。イエス・キリストが、ご復活に至るまでの受難を生きられた一週間である。この一週間を主のご受難を覚えつつ過ごす。主のご受難が自らの罪の結果であることを受け取りながら過ごす。この受け取りがなければ、主のご復活への感謝も起こらないであろう。それゆえに、歴史的にはこの一週間がご復活日に先立って重要なものとされてきたのである。

聖なる受難の一週間は、月曜日から金曜日まで礼拝を守る。それぞれの日にテーマがある。

月曜日：ナルドの香油を注ぐ女の行為を、自らの葬りの備えと位置づけるイエス。

火曜日：地に落ちて死に、多くの実を結ぶ一粒の麦となられたイエス。

水曜日：イエスを祭司長たちに引き渡すユダ。

木曜日：イエスによって足を洗っていただいた弟子たち。

金曜日：十字架上で「成し遂げられた」と息を引き取るイエス。

これらのテーマをみことばから聞きながら、十字架の出来事への自らの関与を心に刻むのである。

わたしたちの教会では、水曜日の礼拝から三日間礼拝を守ることにしている。今年、出席できなかった方は、来年の聖週間には礼拝に出席するように心掛けて欲しい。あなたのためのご復活は、あなたのための十字架に基づいて与えられているのだから。

俳句・春夏秋冬

(春)

災害を 忘れるなかれ 神在りき
おぼろげに 悩み迷うも 不信仰
水温み 神仰ぎつつ 川辺ゆき
花開き 小鳥も共に 神賛美
春の朝 十字架思い 町歩む

(夏)

福音を 語る牧師に 涼風を
苦しみも 神の励まし 夏想う
軒下に 風鈴涼し 平安に

(みのる)

イースターの喜びの中で

今年のイースターは4月20日、例年より少し遅めのイースターに0歳の赤ちゃんから99歳のご老人まで、総勢86名の出席者があり、厳かな中にも活気溢れる礼拝となった。

10時半の開始と同時に会堂いっぱい
にハンドベルの美しい音色が満たされ
「特別な礼拝」らしい雰囲気演出。この
ハンドベルの演奏をしていただいたのは
今回が初演奏となる「なごや希望教会
ハンドベルクワイア」で、教会員の有志
によって組織され、今後も活動を続けら
れていくそう。



例年であると空になった聖壇作りは役員が中心になって礼拝式の中で執り行われるのだが、今年は「こどもの教会」のこどもたちが中心となって聖書、タペストリーなどを運び、新鮮な礼拝式のスタートとなり、「出会い」と題したイースターの力強いメッセージが末竹牧師から語られた。

今年のイースターのもう一つの喜びは三浦敏生兄の洗礼式と堅信式。初めて教

会を訪れてから50年近くたってからの受洗に我々の思いもつかない、はかり知れない神の導きを感じ



と共に三浦兄ともども、信仰の道を歩み続けることを新たに決心させられる思いだった。

聖餐式、祝福と続き、後奏もハンドベルによる「ジュピター」の演奏。会堂をほぼ埋め尽くした方々と共にこのイースターの礼拝を守ることができ、一つになった「なごや希望教会」として「新しい一歩」を踏み出していることが実感され感謝でいっぱいであった。

礼拝後は会場をノア・ホールに移し、例年通りに会員の持ち寄りによる「ポトラック・パーティー」。心のこもった食事は美味しく、心まで満たしてくれた。

(→ 5ページ下段につづく)



もう一度 生きるために

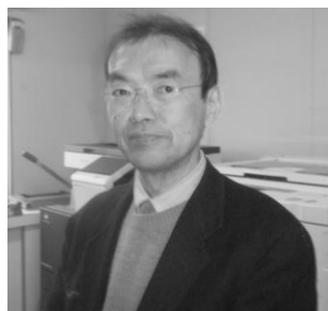
今年のイースターに受洗された三浦敏生兄は1951年生まれの63歳。今までの人生を腕の良い？歯科技工士として過ごされていたそうですが、3年程前に脳腫瘍を患い生死の間で「生きることを改めて考えた」とイースター祝会の最中ではありましたが、今回の受洗について快くインタビューに答えて下さいました。

「もし病気にならなかつたら洗礼を受けようとは思わなかった」とご自身の歩まれてきた道のりを耳が不自由になられたため、筆談で語って下さいました。

教会を始めて訪れたのは高校生の時、今から50年近く前のことで、当時「光が丘」に在籍していた故・水野輝義兄に誘われたのがきっかけだったそうです。

人生の大半を「歯科技工士」として過ごされ傍目には順風満帆の人生に見えたそうですが、ご自身は「心の中ではいつも大きな流れに巻き込まれ、生活のため自分の意志に反して生きていることが嫌だった」そうです。しかし、そうは思っても生活を変える事は困難だったとのこ

と。そんな時に「脳腫瘍」というとんでもない病に遭遇、命の終わりを覚悟して



臨まれた手術を終えられ、病床でもう一度「人生とは」と考えた時、かつて通ったことのある教会の説教を思い出され再び教会へ通うようになったそうです。

「手術が終わった時、いつ終わりが来るか分からない自分の命を思い、今度は悔いなく精一杯生きたい」と思い、そして説教を通して語られる神のみ言を聴くうちに「洗礼を受けて人生を新たに生きたいと思うようになった」そうです。

耳が不自由という大変なハンディがあるにもかかわらず、「完全に治っていたら教会には来ていなかったと思いますよ」と、与えられた苦難を受け入れ「今はオマケみたいな人生です」と明るい表情で語ってくださる三浦兄のこれからの人生に主の祝福がありますよう祈ります。

(文責：川上)

食事をしながら嶋姉の司会でルーテル幼稚園の卒業生、長根尾あきこさんがクラリネット演奏、ジュピターなどを披露して下さり、イースターの喜びを盛り上げて下さった。新結成？の「こどもの教会」のこどもたちと教師によるベスト・エイトのヴォーカルとバンド演奏は会場に元気と若さをふりまき、手拍子と大拍手。聖書クイズをゼスチャーで楽し

むゲームもあり、最後は前回大好評の全員のサン



バの踊りで祝会は終わった。(文責：菊池)

信徒運動としての女性会

真木 雅子

クリスマスを前にした昨年(2014)の12月22日の午後、私は今池で行われていた役員会に呼ばれました。そこで示されたのは2014年から自由ヶ丘と今池の女性会を一つの組織とし、例会も今池で一つにするという牧師と役員会の提案でした。

女性会合同には異論はありません。ただ、今池で合同例会がある時も礼拝は別個に行うというのです。ですから2時からの自由ヶ丘礼拝に間に合うよう合同礼拝は1時間で終わらせ、自由ヶ丘の方は急いで移動するという余裕のないスケジュールなのです。

明けて1月29日、初めての合同女性会総会が22名の参加で開かれ、女性会一本化の話し合いが行われました。そこで奉仕活動などは今まで通り各礼拝所で行うけれど、例会などで常に互いの活動を周知・共有し、連携・協力し合うことが確認されました。つまり活動は二つの会堂で今までのように行われますが、その働きを支える女性会は一つであり、どちらの活動も自分の会の活動なのです。

2月の例会では主に会費や旅費積立金統一の協議が行われました。両女性会とも会費は突き600円だから問題ないと思っていたら、同じ金額でも今池は旅費積立は600円に含まれず、自由ヶ丘の600円には含まれているという、会費の考え方一つをとっても違っているのです。

3月の例会では各礼拝所別活動の、例

えば自由ヶ丘バザーで自由ヶ丘女性会会計から拠出していたデンマーク牧場のアイスクリーム仕入れ代金などを、女性会からの支出にするのか、教会からの支出にするのかという細かい事が話し合われました。一つ一つを協議することは面倒ですが、別個の活動を互いが理解し了承して進むためにも、皆で話し合うのはどうしても必要な過程です。各礼拝所が勝手にやればよいというのでは、一つになった意味がありません。むしろ活動を積極的にアピールすれば、お互いが協力し売り上げを伸ばす良い機会になります。

協議しても意見が分かれることもあります。合同は連盟総会などへの参加費をどこまで補助するのかという事項で意見が分かれ、多数決となりました。しかし、多様な意見や考え方があるのは当たり前のこと。女性会例会はそれを誰でも率直に発言できる場となってほしいと思います。

私はこの合同による女性会活動は信徒運動の一つだと捉えています。組織はどうしてもピラミッド型となりますが、それは役割であり信徒は対等、中心に在るのは人や礼拝所ではなく神様です。一人ひとりが神様から遣わされた者として生かされ、もちいられています。「教会を支えてきた女性の力を発揮したい」高齢の方が発言しました。合同して35名の会員となった女性会がより力を発揮できるよう例会が活発な話し合いの場となり、各自の主体的自発的活動が生かされ広がっていく働きのベースになればとを考えます。

1人でも多くのこども達に伝えるために

2月16日に「キンダーサンデー」が開催されました。30年ほど前に伊藤文雄牧師の発案で始まった「キンダーサンデー」。幼稚園のこどもたちと保護者のみなさんを教会にお招きして、礼拝を共に守り、午後はカレーの会食をするという企画でした。幼稚園と教会との交わりのときだったのです。2012年から、教会学校（現こどもの教会）に幼稚園のこどもたちと保護者のみなさんをお招きして、こどもの教会につながっていただくきっかけにしようという方向に性格が変わりました。

今年は「こどもの教会」のこどもたちが、幼稚園のこどもたちに招待状を自筆で書いて、参加を呼びかけました。当日は、親子で70名を越える参加者があり、大人の礼拝を上回る？賑わいの中、楽しいプログラムが行われました。当日は、初めて「こどもの教会」に来たこどもと保護者が多く、伝えることの大切さを考えさせられました。



末竹牧師の説教は、幼稚園のこどもたちにも分かり易いお話しでした。「こども

の教会」の2013年の活動を報告することもたちのうれしそうな姿からは、携わっている先生たちの思いが伝わってきました。少しでも多くの人がかどもの教会に来て欲しいという先生たちの熱意も伝わってきました。

こどもたちを取り巻く環境も変化し、とても忙しいこどもたちがこどもの教会に来るようになるためには、先生方の大変な努力があるのだと改めて緒思わされました。それも、一人ひとりの先生方の福音を伝えたいとの思いを起こして下さった神の御業だと思います。



幼稚園を卒業したこどもたちが、4月からこどもの教会に来てくれるようにとの祈りを、教会員も共に祈らなければと思わされました。今年の主題聖句である「今や、それは芽生えている」とのみことばの通り、こどもの教会には芽生えているものがあるのです。こどもの教会から、中学科夕礼拝に、そして大人の礼拝へと一人ひとりが信仰をもって歩み続けることができますように。（文責:末竹）

「こどもの教会」は毎週日曜日9時00分から今池礼拝所で行っています。

神様の愛をいただいて

長谷川奈穂



私は25年程前に統一教会に入信して、2年間、家出生活を送った後、今は岐阜

教会におられる斉藤牧師によって脱会し、その縁で2002年頃に名東教会を紹介して頂きました。

独身時代は両親に従い、結婚してからは義父母や夫に従い、ずっと「いい子」を演じながら、私は自分というものが持たず、絶えず自信がなく、人に振りまわされ、人に支配されていました。

そんな私が2005年に名東教会で洗礼に与り、それまでの人生がイエス様に出会う為に用意された私の道であったと思うことが出来ました。

神は試練を通して絶えず私を成長させて下さっています。階段を登る様に一段一段、初めは楽なところから…。

4年前、家庭内で大きな問題が起こり、自分の力では解決できない中で、み言にすがりしかありませんでした。

このみ言は聖研で教わったみ言です。「神は愚かになる事も、弱くなる事も出来るが、強いと思っている人間は、弱くなり得ないし、賢いと思っている人間は愚かになり得ない。神様は神である事を捨てて受肉し、弱くなられた」

私は、人に対し低くなるろうとしても出来ないし、何の知恵も無い。全くの土塊

いのちの言⑨

神の愚かさは、人よりも賢く、神の弱さは、人よりも強い

(コリント信徒への手紙 1章25節)

に過ぎないと思い知らされました。

私は今、み言を頂く事が本当にすごく喜びです。神様が低くなれない私を御前に低く置いて下さっていると思うのです。少し前まで私は自分の罪を知る事が自分を耕す事だと思っていましたが、説教の中で、神の恵みが自分の中で働いている事を知る事が自分を耕す事だと教えられ、日々の苦しい生活の中でも難だか嬉しいのです。

私は「奈穂」という名を与えられていますが、以前は好きな名ではありませんでした。今は稲穂の様に神の前に頭を垂れる者でありたい、そして他者の為に実りをつける者でありたい。神の栄光を大きくは無理ですが小さくとも示させて頂きたいと思うこの頃です。

.....

編集後記 一月遅れの「愛」の発行となつてしまいました。予定していましたが発行日、イースターに三浦兄が受洗されるという朗報が飛び込み、編集室で相談、なんとか今号で同兄の「受洗の喜び」の記事を掲載することができました。主の導きに感謝すると共に、三浦兄のこれから歩まれる道が主と共にありますようお祈りいたします。前号で募集いたしました「俳句・春夏秋冬」にはどなたからも投稿がなく、今回も野間兄にお願いしましたが、俳句に限らず皆様からの投稿をお待ちしています。(川上)